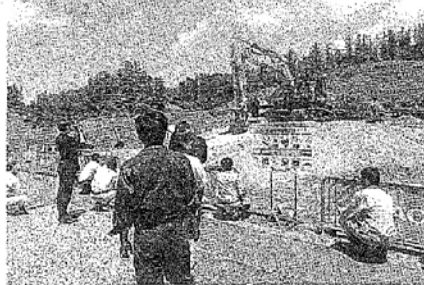


最先端の技術を体感

【帯広発】宮坂建設工業（株）活用工事の一連のプロセスに（帯広、宮坂寿文社長）は二つについて理解を深めるとともに十三日、日立建機（株）浦幌試験場でi-Constructio

ionセミナーを開催した。同社は、建設現場における日立建機グループとの共催で生産性を向上させるため、国行ったもので、帯広開建および十勝総合振興局の技術職員や、管内建設業者の社員など総勢百八十人が参加。ICT導入しており、安全性向上や



施工精度の高さに参加者から驚きの声が上がった



セミナーでは最新鋭建機および実機見学も行われた

宮坂建設工業がi-Con セミナー

労働者不足の解消、工期短縮などの成果を挙げている。今回のセミナーは、i-Constructio

onstructionへの理解を一層深めるとともに、ICT施工を現地で実感してもらおうと企画したもの。日立建機グループの協力も得て、最新鋭の建機を用意してセミナーが行われた。

冒頭、あいさつに立った宮坂社長は「今までの建設業は、いわゆる3Kとされてきたが、i-Con導入によってイメージは改善される」と強調。その上で、賃金水準の向上や、休日の確保、安全な職場環境の実現により「給料・休日・希望」の新3Kへと転換させ、優秀な若手技術者の採用にもつながれば」と期待感を示した。

セミナーでは、最初に

受発注者総勢180人参加

品質維持し工期短縮

日立建機グループ i-Con セミナー 宮坂建設工業

【帯広】日立建機グループと宮坂建設工業（本社・帯広）は23日、日立建機浦幌試験場でICT施工の実演を繰り交せたi-Constructio

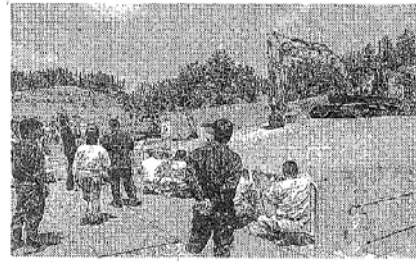
ionセミナーを開催した。起工測量から設計・施工計画、施工、検査までの一連の流れと対応サービスを紹介。宮坂建設工業はICT技術を導入した効果を説明した。



日立建機は、9月中旬から国内向けに提供を始めるICT施工向けクラウドソリューション「Sokura」は、最新のICT建機による作業を簡便に体験した

lution Link age Cloud」を紹介。ICT施工の情報をユーザーがスマートフォンやタブレット端末などで簡便に取り出せるという特徴を解説した。また、起工測量から検査まで、顧客の要望に応じて日立建機グループ全体で最適なソリューションサービスが提供できることを説明。会場内で実際の施工を実演した。

このほか、ドローンを使った起工測量や次元設計データ作成、出来形管理、CIMモデリングについてテラドローン（本社・東京）の竹崎孝二事業開発部長が解説した。



ICT施工を実演 浦幌町でi-Constructionセミナー

宮坂建設工業と日立建機 日本やテラドローンの社員は23日、i-Constructionがi-Constructionの事例紹介や起工測量、3D設計データ作成に試験場で開いた「写真。自 関する説明を行った後、ICTを取り入れたブルドール関係者や建設業者など約180人が参加。国土交 ざやバックホウの操作を実通省が推進する建設現場の生産性向上策「i-Construction」の取り余性といった導入効果に関する説明が行われた。最後（情報通信技術）建機の実演などが行われ、参加者はICT施工による作業の正確さなどを確認した。

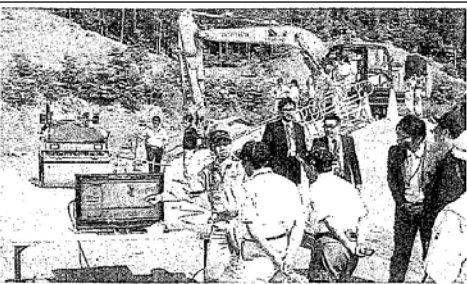
午前9時の部では、日立建機 社長は「ICTの導入により技術が均一化され、品質向上にもつながる。災害復旧でも安全性を確保しながら迅速な対応が可能になるのではないか」と話し、ICTの普及拡大に期待感を示した。

ICT活用の土木技術に関心

浦幌でセミナー 200人見学

【浦幌】情報通信技術（ICT）を活用した最新の測量や重機、施工管理を紹介する「i-Construction（アイ・コンストラクション）セミナー」が23日、町田田来の日立建機浦幌試験場で開かれ、関係者約200人が最先端の土木技術を見学した。

日立建機グループと宮坂建設工業（電匠）が初めて開催。宮坂建設工業は2年前、ICTを活用する手法を説明。その後、最新の重機のデモンストラーションを行った。自動で土を平らにならすブルドーザーやロードローラー、無線操縦の無人ショベルカー、すくい取った土の重さ



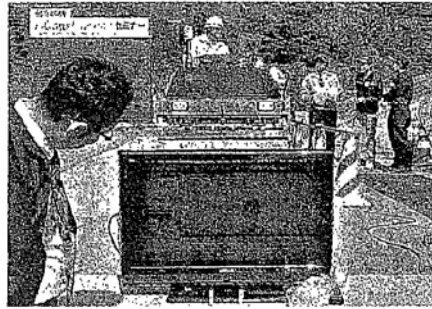
GPSを活用し施工の正確性を高めたロードローラーの発表。

を瞬時に算出し車面横み込み量を管理するパワーショベルが関心を集めていた。

（米林千晴）

ICTで建設 現場効率化 セミナーで技術紹介

【浦幌】情報通信技術（ICT）を活用し建設現場の



ICTを活用して画面に示されたローラーの転圧状況

生産性向上を図る「i-Construction（アイ・コンストラクション）」のセミナーが、町瀬多来の日立建機浦幌試験場で開かれた。実演機械も並べ、最新技術が紹介された。

日立建機（東京都）、日立建機日本（埼玉県）の主催、宮坂建設工業（帯広市）の協賛で、6月23日に開催し、主に管内の行政や建設会社などから計200人が参加した。

アイ・コンストラクションの工程について、担当者が測量や設計図面の3次元化、ICT建機による施工、出来形管理と検査を紹介。調査設計、施工、管理の3次元モデルを情報共有する「CIMモデリング」についても説明した。

荷重判定装置付きの油圧ショベルの実演では、過積載や過少積載を防ぐため、バケットやダンプ積載重量

を自動で計測するモニターを見ながら操作したり、ICTを活用して掘削作業の効率を高めたりすることが披露された。

宮坂建設工業の宮坂寿文社長は「ICT技術を活用し、建設業を『給料・休日・希望』の新3Kへと転換させる改革前夜となる。今後、勉強を重ねていきたい」と話していた。

（関坂典生）